

# GID(性同一性障害)学会第14回研究大会・総会

3月岡山

## 会長インタビュー

岡山大学大学院  
保健学研究科

岡山大学病院エンター  
クリニック医師・GID  
(性同一性障害)学会理事長

中塚 幹也 教授



中塚教授はシンポジウムの一つ「子どもたちへの支援・医療と教育の連携」を学校関係の方々にも会場に足を運んでいただき、ぜひ聞いてほしいと語る。2010年4月、文部科学省は

GID(性同一性障害)学会第14回研究大会・総会が3月17、18日、岡山大学鹿田キャンパスで開かれる。テーマは「医療から社会への発信」。会長の中塚幹也・岡山大学大学院保健学研究科教授は「今回のシンポジウムでは、手術などの医療を取り巻く現状を報告すると共に、より生活に密着したトピックスを取り上げた」と話す。

## テーマ

# 医療から社会への発信

都道府県教委などに対し、教育相談を徹底し本人の心情に十分配慮した対応をするよう通知したが、なかなか浸透していないというのが現状だ。

## 医療を取り巻く現状と課題を報告 偏見なくす教師の配慮と支援不可欠

今学会で解説を行う、日本精神神経学会ガイドライン改訂第4版でも指摘しているが、GIDの子どもの持つ思春期の身体の変化へのつらさを緩和するための第二次性徴の抑制療法をシンポジウムで取り上げる。教育現場でのGIDに対す

る認識不足は否めず、子どもたちと常に接する教員が正しい知識を得ることで、子どもたちを取り巻く環境を大きく変えていける、と

いうことを伝えたいという。

GIDで子どもができない夫婦は、第三者から精子の提供を受け、人工授精による出産を行っている。シンポジウム「家族を考える…生殖医療・養子縁組」では、その当事者が、子どもが非嫡出子としてしか認め

られない現状について講演する。家族の在り方の多様性を踏まえた議論が行われる。

さらに「当事者グループの役割と機能」と題し、各地の支援ネットワークの現状を取り上げる。地域にどのように根を張っていくのか、多様な当事者グループを招き、他のセクシャルマイノリティとの連携などについて

の議論も行われる。「手術が日本でも行われるようになり医療環境は充実してきました。戸籍の性別変更で結婚も可能になる今回の学会では教師の方にも参加いただいて、GIDの子どもの気持ちを実感してほしいと思っています」

またワークショップでは、生活支援としてメイクやファッション、ボイストレーニングなど、GIDの当事者が抱えている分野について、専門家を招いて対談なども行われる予定だ。

## 編著者インタビュー

NPO医療的ケアネット

すぎもと 博一  
(クリニック所長)

杉本 健郎 理事長



## 「はじめの一步」マニュアル

## 入門書



医療行為の実施が可能になる。今後のあり方を含め、考え方、実技を解説する『医療的ケアはじめの一步』という理解と支援への基本

説。この4月から一部可能になる非医療職の医療的ケアについては1章、15章、16章で詳述されている。編著者のNPO法人医療的ケアネット・杉本健郎理事長は「医療的ケアの方法・対応は一人ひとり異なる」と、卒業後、地域での医療

看護師と教員が連携して行う特別支援学校での医療的ケアを根付かせる上での問題点として杉本氏は、学校での医療的ケアが必要な児童・生徒に対する看護師の配置(数や常勤・非常勤か)に府県格差があること、

のケアにつな